

中期経営計画 GLP2026

濱田 宏一

アンリツ株式会社
代表取締役 社長

2024年4月25日



本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

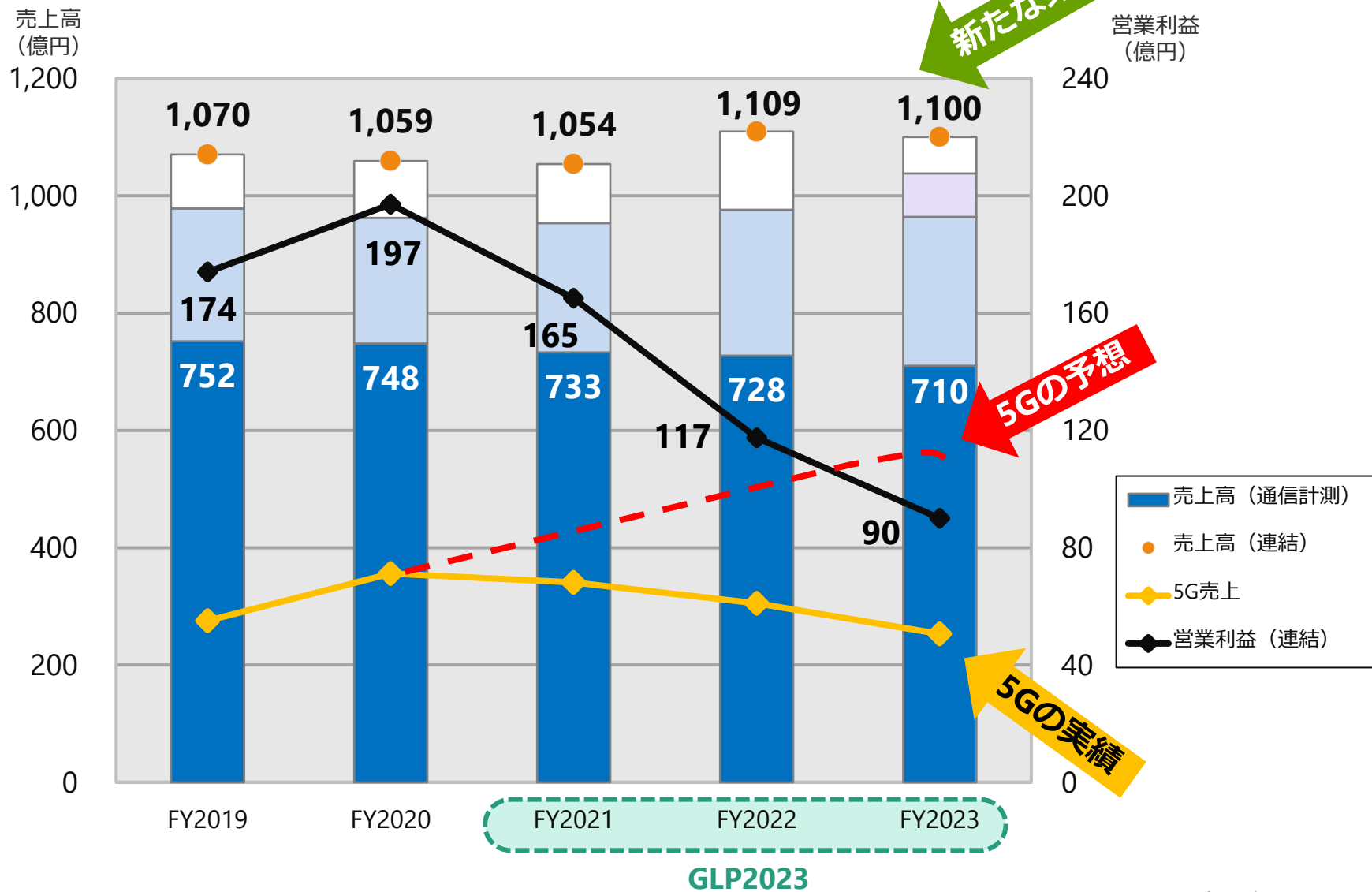
実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

目次

1. 中期経営計画（GLP2023）レビュー
 2. 中期経営計画（GLP2026）の基本方針
 3. GLP2026とFY2030の目指す姿
 4. 売上高・営業利益計画
 5. 財務戦略
 6. 人材戦略
 7. サステナビリティ目標
 8. 通信計測市場トレンドと事業機会
- Appendix：用語集

1. 中期経営計画（GLP2023）レビュー



項目	成果
財務	売上1,100億円 営業利益90億円と 数値目標は未達も、 株主還元は計画通り実行 (配当性向：54%、 総還元性向：87%)
重点分野*	高砂製作所のM&Aにより EV・電池試験市場へ参入
通信計測	5G市場の縮小と世界的な インフレ圧力が続いたが、 生成AIの急拡大による データセンタ高速化需要 を獲得
サステナビリティ	女性管理職比率：12.1% (1.3ポイント上昇)

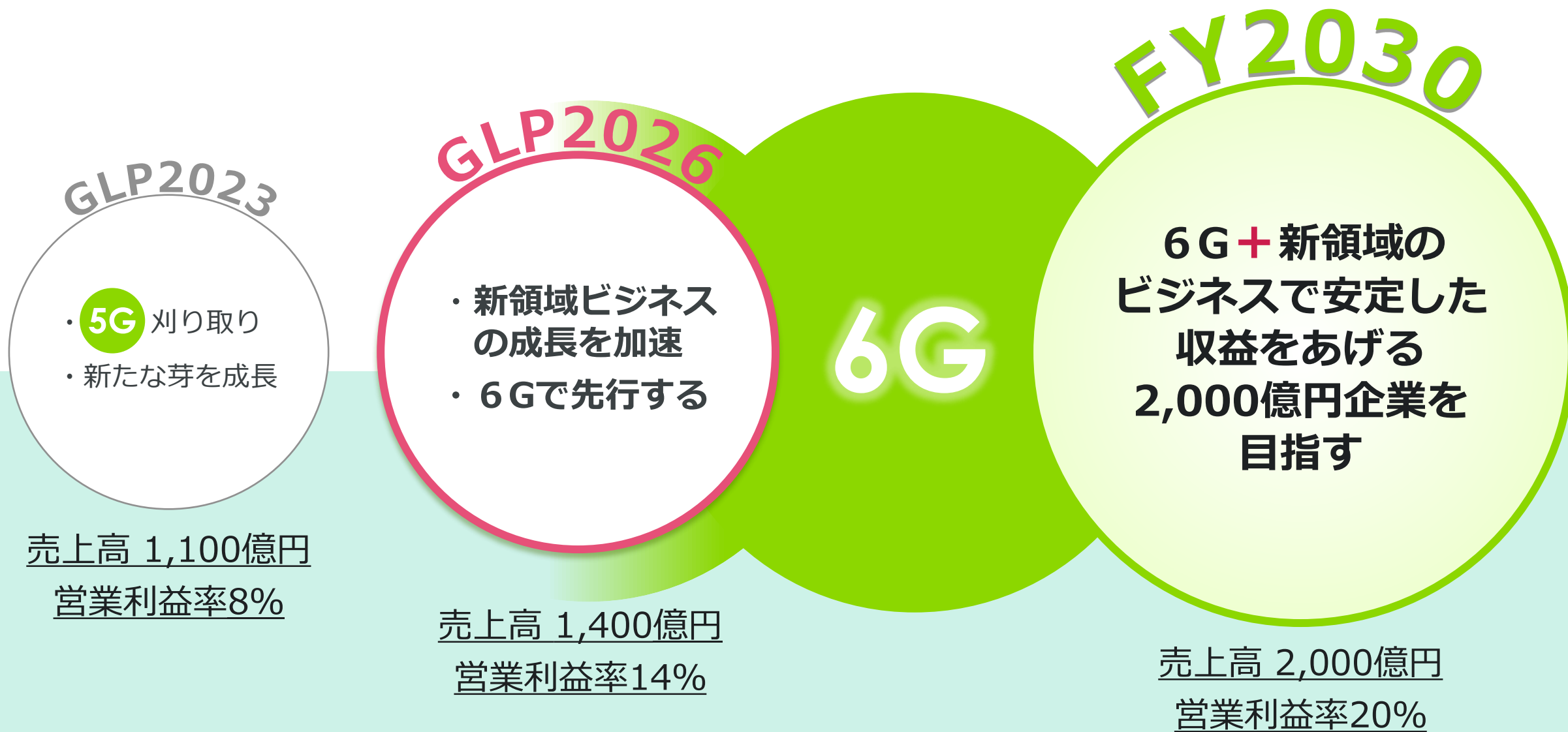
*4つの重点分野：ローカル5G、EV・電池、医療・医薬品、光センシング

2. 中期経営計画（GLP2026）の基本方針

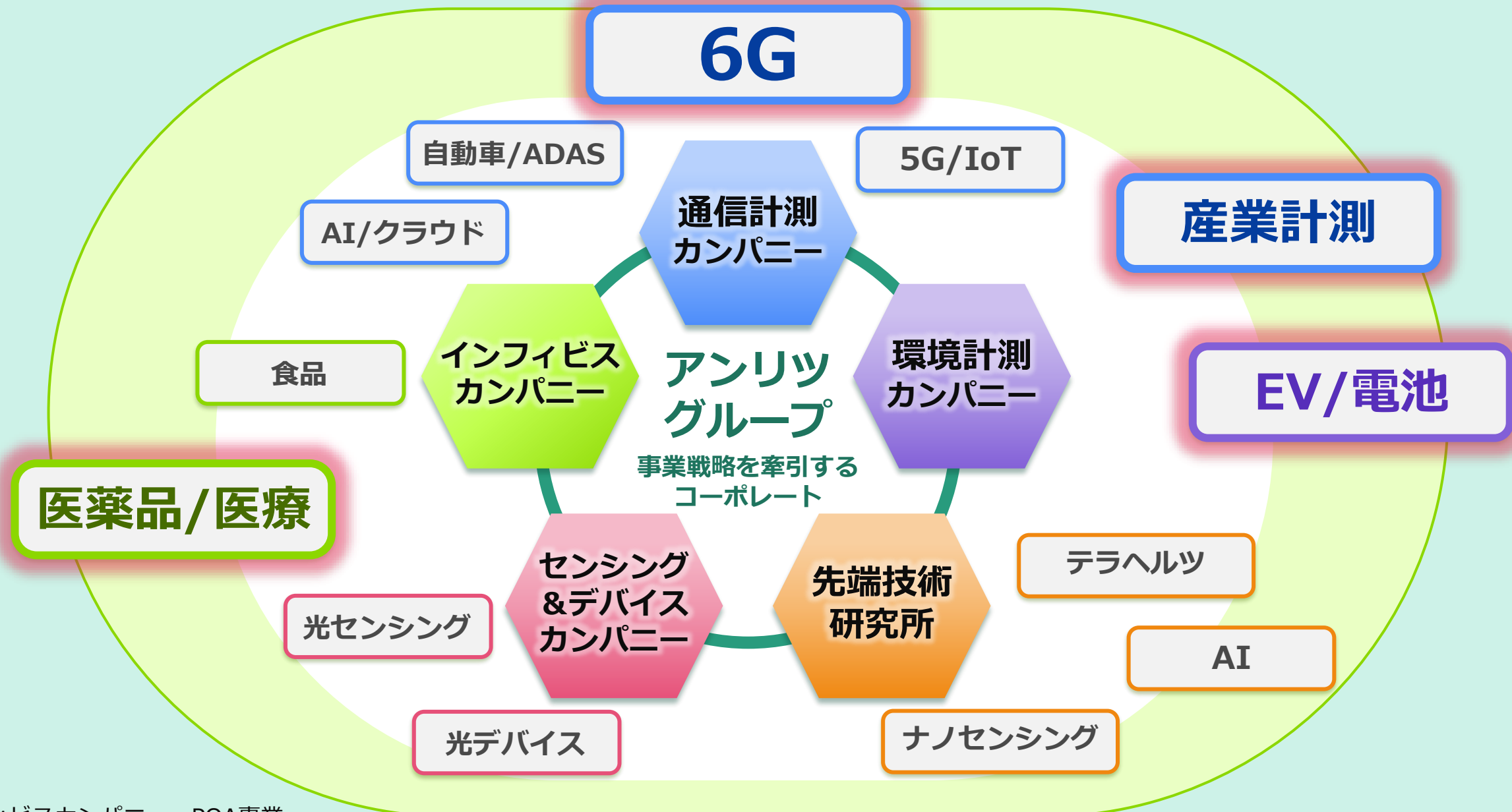
- 1 成長投資に400億円以上（M&A+設備投資）
- 2 ROE \geq 10%を安定的に達成する事業ポートフォリオの構築
- 3 2026年度の営業利益の25%を通信計測以外で創出
- 4 新領域ビジネスの人材強化、全社での人材育成体制を構築
- 5 事業活動における資源循環(サーキュラーエコノミー)の実現
- 6 株主還元では配当性向50%以上を目指す

3-1. GLP2026とFY2030の目指す姿

「はかる」を超える。限界を超える。共に持続可能な未来へ。



3-2. GLP2026 6Gと3つの新領域ビジネス

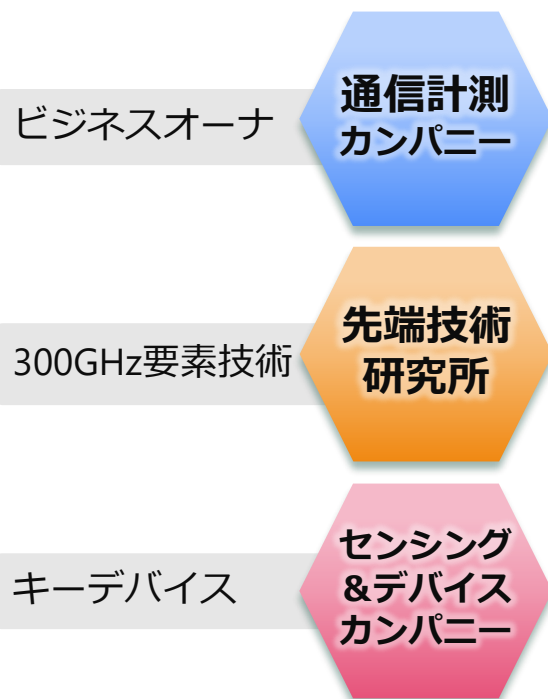


*インフィビスカンパニー：PQA事業

3-3. 6Gと新領域ビジネスの成長をグループ横断で加速

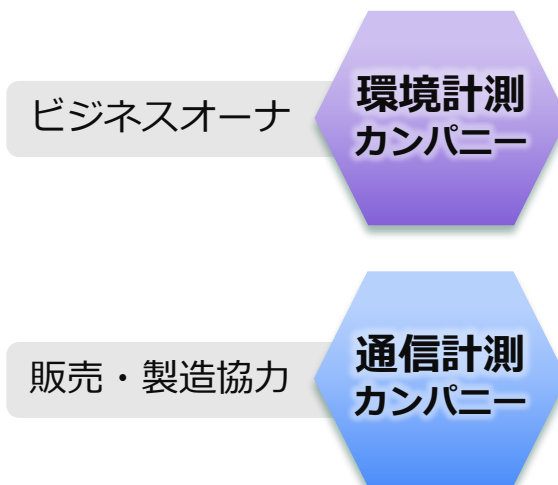
6G

6Gで先行。
要素技術、
キーデバイスで差別化



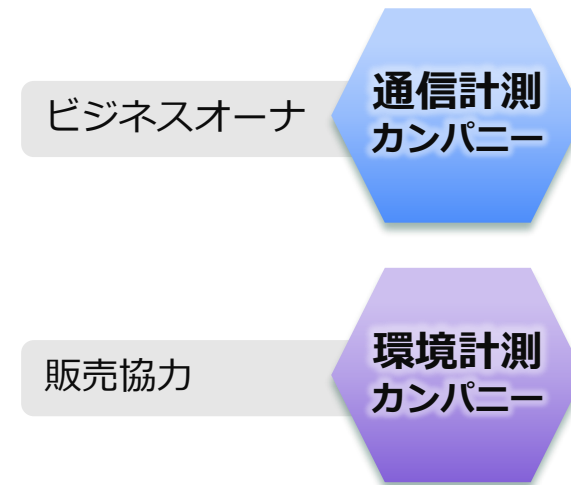
EV/電池

販売と製造で通信計測
事業がグローバル
に協力。
成長を加速



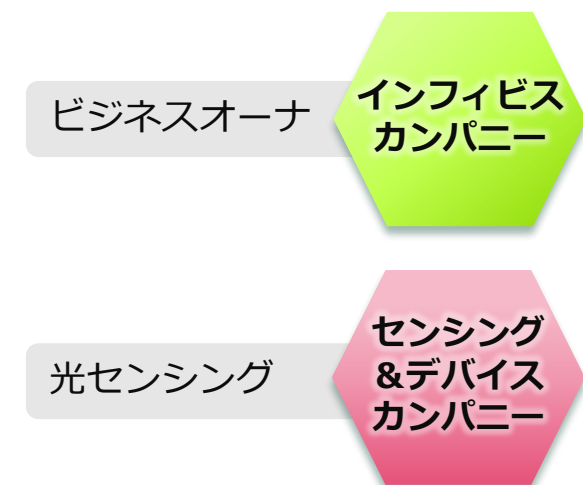
産業計測

通信計測事業と環境計
測事業で通信以外の
産業に汎用計測器を
拡販



医薬品/ 医療

インフィビスとセンシ
ング&デバイスは光セ
ンシング技術等を使い、
医薬品、医療分野開拓



*インフィビスカンパニー：PQA事業

4. 売上高・営業利益計画

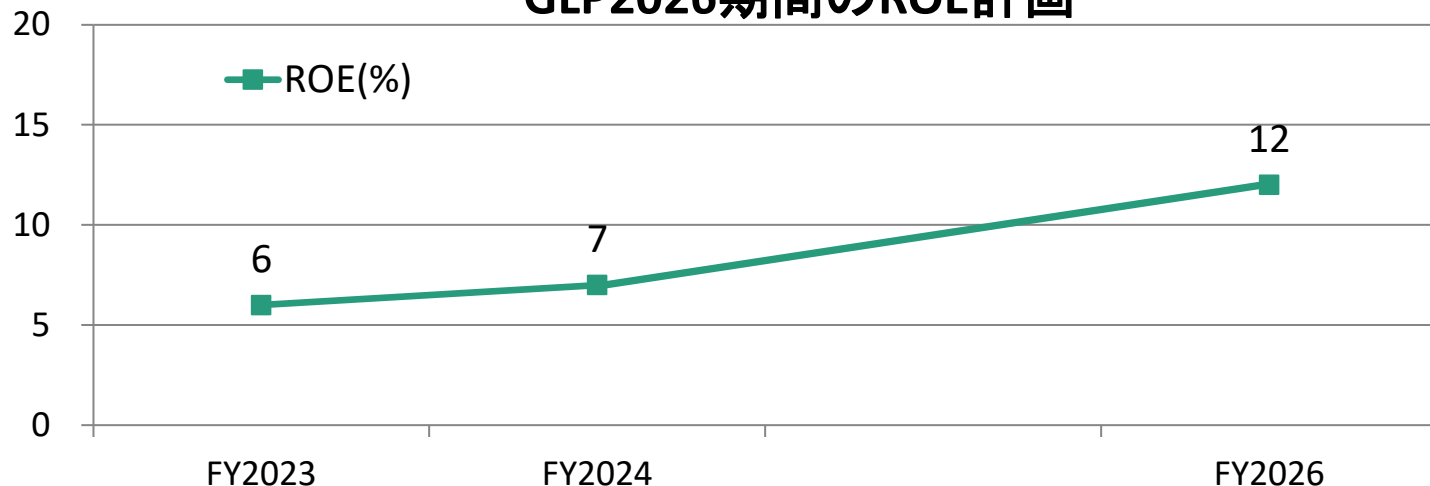
指標		FY2023	FY2024	FY2026
売上高		1,100 億円	1,150 億円	1,400 億円
営業利益		90 億円	110 億円	200 億円
営業利益率		8 %	10 %	14 %
当期利益		77 億円	83 億円	150 億円
ROE		6 %	7 %	12 %
通信計測事業	売上高	710 億円	738 億円	900 億円
	営業利益	75 億円	92 億円	150 億円
	営業利益率	11 %	12 %	17 %
PQA事業	売上高	254 億円	267 億円	300 億円
	営業利益	13 億円	19 億円	36 億円
	営業利益率	5 %	7 %	12 %
環境計測事業	売上高	74 億円	90 億円	130 億円
	営業利益	5 億円	7 億円	14 億円
	営業利益率	7 %	8 %	11 %

(参考) GLP2026想定為替レート：1米ドル=145円、1ユーロ=155円

5. 財務戦略

1. 株主資本コスト（7%）を上回るROEの実現
企業価値KPI ROE \geq 12%

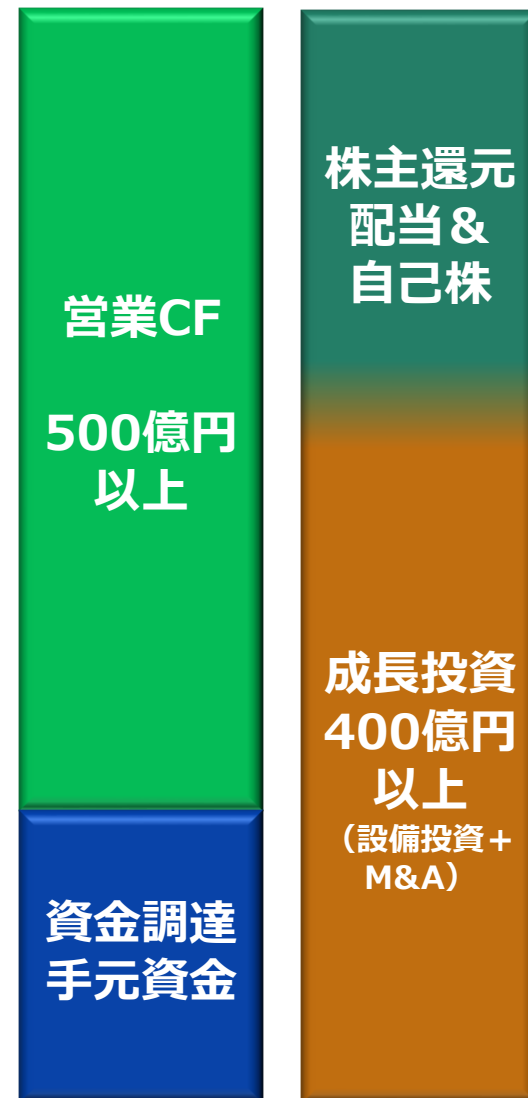
GLP2026期間のROE計画



2. キャピタルアロケーションの最適化

500億円以上の営業CFに加えて、資産効率性の向上と強固な財務体質を活かした資金調達によりキャッシュを創出し、新領域のビジネスを推進するために400億円以上の成長投資を行います。株主還元については、配当は連結配当性向50%以上を目標とし、自己株式の取得は必要に応じて機動的に実施致します。

GLP2026期間の
キャピタルアロケーション
キャッシュ創出 キャッシュ用途



経営ビジョン	「はかる」を超える。限界を超える。共に持続可能な未来へ。		
経営戦略	既存事業の枠を超え、FY2030に売上高2,000億円、営業利益率20%を目指す		
	新領域ビジネスの開拓	強いものづくり	働き方改革
人材ビジョン	「会社と多様な従業員がベクトルを合わせ、事業(社会)貢献意識を持ち、仕事と私生活のバランスを取りながら生き生きと働いている」		
人材課題	<ul style="list-style-type: none"> 経営戦略に連動した人材確保と配置 年齢別人員構成：FY2030に向けコア・中堅層の不足、シニア層の活用 経営戦略実現に向けた職場風土醸成：成長・挑戦/多様性受容/仕事と生活のバランス 		

■ Initiative

● 成長事業・重点領域の人材確保と育成

- ✓ 経営戦略からトップダウンで人員計画を作成し、全体最適で戦略的な人員確保/配置/教育を行う
- ✓ 経営層、経営戦略部門、人事部門によるレビュー体制の確立（人材戦略レビュー）
- ✓ A-SKILLSを立ち上げ、カンパニー横断での人材育成体制を構築

● 若年/リーダー層の積極採用と育成、およびシニア層活用強化

- ✓ 新卒/キャリア問わず、若年層/コア人材の積極的な獲得を目指す
- ✓ 配置/職種転換の推進やリスキリング等の継続的な成長支援によるシニア層活用強化

● 経営/人材ビジョン実現に向けた職場風土醸成

成長・挑戦

- ✓ 自らの壁を取り払い、新たな領域に好奇心を持って取り組む人材、ステークホルダーや他社と共に社会課題の解決を目指す人材を育成する

多様性の受容

- ✓ 価値観や考え方も含め多様性を持つバラエティに富んだ人材が混ざり合い、多様な視点と強みを活かし新たな価値を創造する

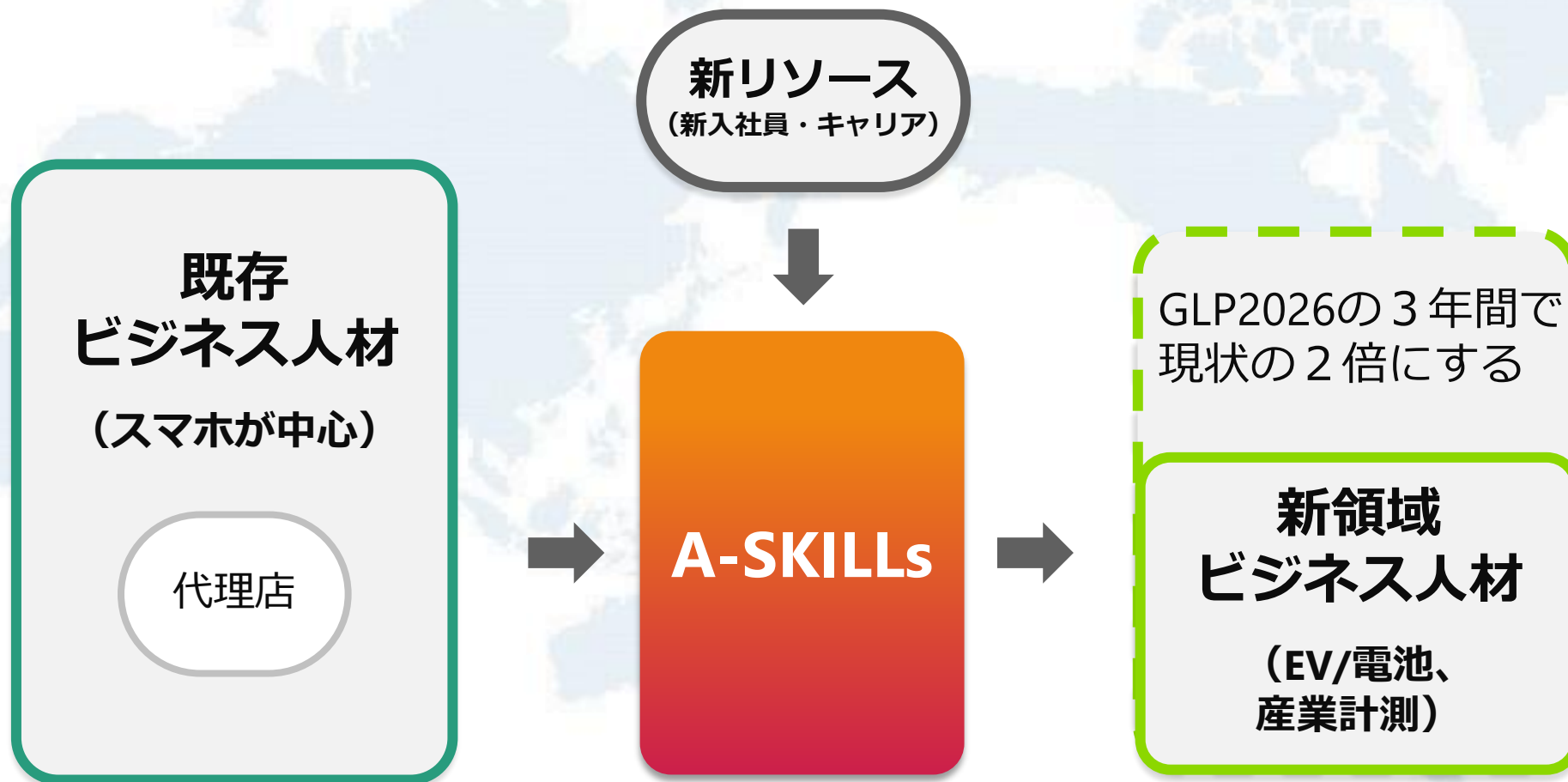
ライフワークバランス、就業環境整備

- ✓ 「生活と仕事のバランスを考えて、働きやすく人生を楽しめる会社」と「労働生産性が高く働きがいがある会社」の両立に向けた制度・環境を整備する

6-2. 新領域ビジネスの人材を育成

Anritsu SKILLS training center (A-SKILLS)をスタート。

- 新領域ビジネスの“技術”と“販売力”のスキルを身に着ける。
- EV/電池計測、産業計測分野の人材をグローバルで増強



7. サステナビリティ目標

目標・取組

GLP2026:KPI

温室効果ガスの削減

- 温室効果ガス (Scope1+2) (※) : 2021年度比 23%以上削減
- 温室効果ガス (Scope3) (※) : 2019年度比 17.5%以上削減
…2030年度で、Scope1+2は42%以上、Scope3は27.5%以上削減

自家発電比率の向上(PGRE 30)

- 自家発電比率 : 14%以上 … 2030年ごろまでに30%程度まで高める

資源循環(サーキュラーエコノミー)の実現

- 資源循環に対応した製品をリリースする
- プラスチックごみを100%マテリアルリサイクル

ダイバーシティ経営の推進

- 女性の活躍推進 : 女性管理職比率 15%以上
- 障がい者雇用促進 : 職域開発による法定雇用率 2.7%達成

働きがいのある労働環境の実現

- 社員満足度調査の働きがいポジティブ回答率 : 80%以上

グローバルなCSR調達の推進 (環境、労働環境、人権などにおける社会的責任)

- サプライチェーン・デューデリジェンスの強化 : 10社/年以上
- CSR調達に係るサプライヤへの情報発信 :
3回/年、教育2回/年以上

グローバルなガバナンス向上

- 取締役の多様性の推進 : 女性取締役比率 20%以上
- 取締役会における重要経営課題の集中討議 6回/年

(※) Scope1 : 事業者自らによる温室効果ガスの直接排出(燃料の燃焼、工業プロセス)、Scope2 : 他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出、Scope3 : カテゴリ1(購入した製品・サービス)+カテゴリ11(販売した製品の使用)における間接排出

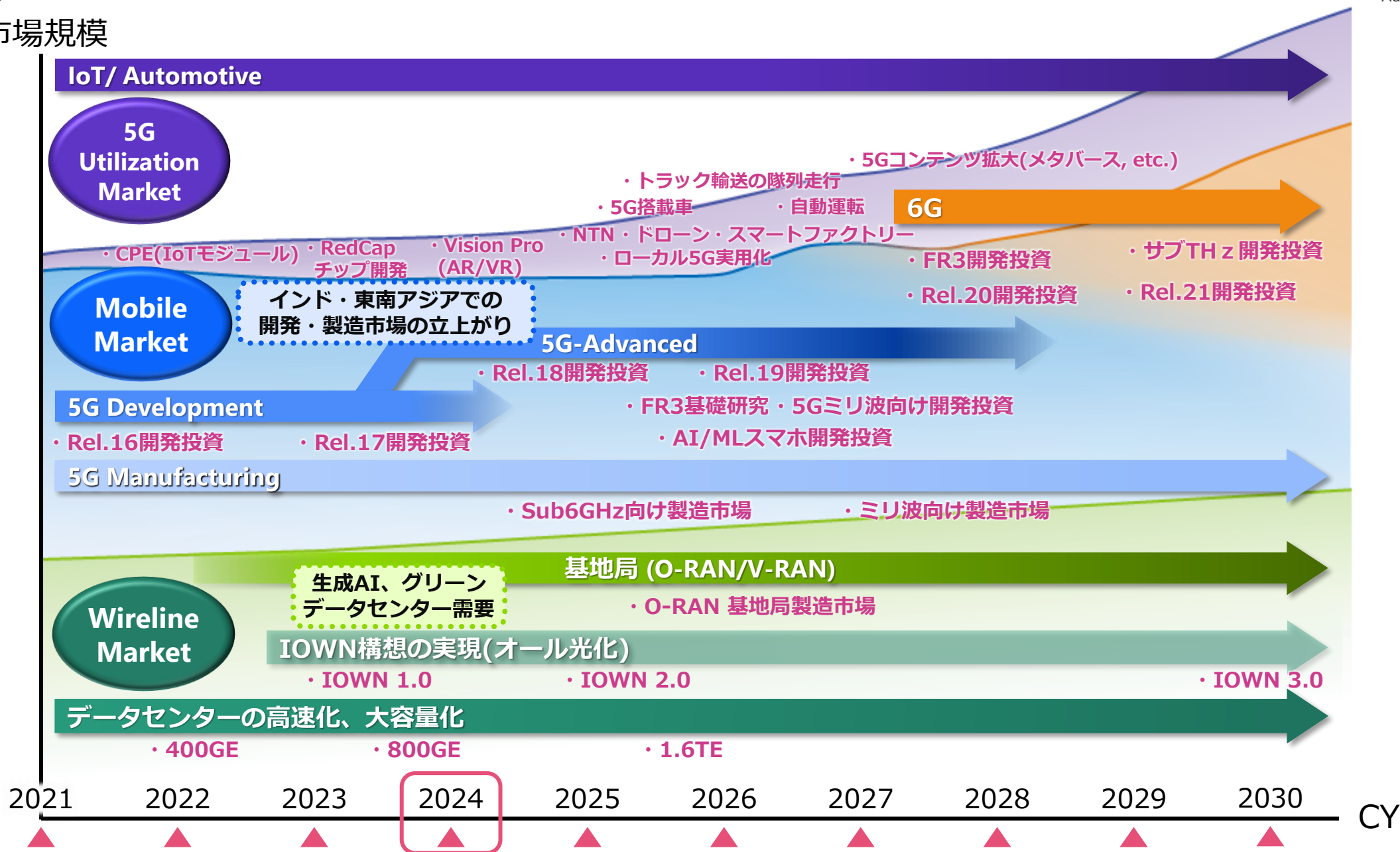
E
環境

S
社会

G
ガバナンス

8. 通信計測市場トレンドと事業機会

市場規模



Appendix



ADAS :	Advanced Driver-Assistance Systems
AR :	Augmented Reality
A-SKILLs :	Anritsu SKILLs training center
CPE :	Customer Premises Equipment
CSR:	Corporate Social Responsibility
GLP :	Global Long-term management Plan
IOWN :	Innovative Optical and Wireless Network
ML :	Machine Learning
NTN :	Non-Terrestrial Network
O-RAN :	Open Radio Access Network
PGRE :	Private Generation of Renewable Energy
PQA :	Products Quality Assurance
ROE:	Return On Equity
VR :	Virtual Reality
V-RAN :	Virtual Radio Access Network

Anritsu
Advancing beyond

